

研究対象者等に通知し、又は公開すべき事項（情報公開用）

試料・情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）

・研究課題名：腺腫様甲状腺腫(過形成)と確定診断された後に頸部・遠隔転移が生じた症例の全エクソーム解析

・目的：甲状腺腫瘍において最終診断は切除検体の病理診断によってなされます。甲状腺癌のうち濾胞癌の組織学的診断には、腫瘍の被膜浸潤、脈管浸潤の証明が必須です。しかし、これらの組織所見は、定義があいまいであり、施設間、病理医間でも意見が食い違うことが多いことが知られています。一方、甲状腺腫瘍において癌と癌以外を区別できる方法として病理学的形態診断に加えて、特徴的な遺伝子変異が有用であることが報告されており欧米においては日常診療において有用性が示されています。しかし残念ながら日本では臨床における甲状腺腫瘍の診断に遺伝子変異検査は応用されるに未だ至っておらず、研究室レベルでの解析にとどまっています。今回の病気は、先に述べた濾胞性腫瘍病変でもなく、過形成の病態と病理学的に診断されたあと、のちに脈管浸潤を伴う濾胞癌と診断された極めて特異的な病態と考えられます。過去の切除検体を用いて遺伝子変異の解析法である全エクソーム解析を加え検討することは本病態の解明に寄与する可能性が高いと考えられます。腺腫様甲状腺腫は日常的に経験する非常に数の多い病態であり、この経験から学び、確実な診断の確立を目指すことは医療者の責務と考えられ、それに寄与する研究になりうると考えています。

・研究期間： 承認日 ~ 2025年3月31日

・研究対象：2017年6月13日~2020年12月11日

利用し、又は提供する試料・情報の項目

：過去に手術で摘出した甲状腺組織や頸部リンパ節組織や通常の診療で行った採血の残りを用います。それらから染色体DNAを抽出し、塩基配列を読み取ります（全エクソーム解析）。その結果から、遺伝子変異があるかの確認をします。

その他、電子カルテから、診察時にお聞きした内容（性別、年齢、身長、体重、喫煙・飲酒状況、現病歴、既往歴、治療歴、内服状況、家族歴）、検査データ（血液検査、画像検査）を調査します。

利用する者の範囲

：埼玉医科大学国際医療センター 頭頸部腫瘍科・耳鼻咽喉科 中平光彦

埼玉医科大学国際医療センター がんゲノム医療科 平崎 正孝

埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科 安田 政実

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

：埼玉医科大学国際医療センター 頭頸部腫瘍科・耳鼻咽喉科 中平光彦